日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会
理事長　草場　鉄周

I.　医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a.　特に学術的に重要と考えられるもの

日本においてプライマリ・ケアの学術的な位置づけや専門性はまだ確立されておらず、日本における様々な研究を通じて基盤を構築していく途上にある。本学会は以下の事業を実施することにより、そうした研究活動を積極的に支援すると同時に、研究を発表する場としての学術誌の発行、更に、研究人材の育成を行い、多面的に学術的な活動を促進する体制を構築している。

①　プライマリ・ケア研究助成制度の運営
②　和文誌　日本プライマリ・ケア連合学会誌　の発行
③　英文誌　Journal of General and Family Medicine　の発行
④　未来研究リーダー人材育成プロジェクトの実施
⑤　PCR（Primary Care Research）-Connect の実施

b.　当該領域における国際的な役割

本学会はプライマリ・ケア領域の唯一の国際学会である世界家庭医機構（WONCA）の日本代表団体として、諸外国のプライマリ・ケア領域学術他団体と積極的な交流を展開している。理事長の草場は 2018 年より WONCA アジア太平洋地区の理事の任にあり、アジア太平洋地区のプライマリ・ケアの発展のために貢献している。

c.　活動からもたらされる社会的な意義

プライマリ・ケア領域は他の専門領域と臨床面では重なる部分も大きく、独自の発信が容易ではない。しかし、その中でも、各専門領域の中では埋没しやすい課題として、健康の社会的な格差、診療の質向上、多疾患合併、ポリファーマシー、在宅医療などについて委員会活動を展開している。なお、コロナ禍においてプライマリ・ケアの立場から全国の医療者の活動に寄与するよう以下のような様々な発信を行っている。

①　「健康格差に対する見解と行動指針」の策定と公開
②　「HPV ワクチンに関する声明」の策定と公開
③　新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応
　（ア）新型コロナウイルス感染症診療所・病院のプライマリ・ケア初期診療の手引

（イ）コロナワクチンに関する解説動画「新型コロナウイルスワクチンより安全な新しい筋注の方法」
（ウ）COVID-19 における全国各地でのプライマリ・ケア診療モデルの紹介
（エ）COVID-19 に関するプライマリ・ケア従事者の経験を探る質的研究
（オ）プライマリ・ケアにおけるオンライン診療ガイド

d.　学会運営上留意している点

一つは、本領域が独自の専門性を持つという認識は日本の医療の中ではまだ不十分であることを踏まえ、本領域をわかりやすく理解してもらうための情報公開や発信を各種メディアやホームページ、SNS を通じて積極的に展開していることである。二つ目は、会員の背景が大学病院、総合病院、診療所、都市部、郡部、更には医師、看護師、薬剤師などと、非常に多様であることを踏まえ、学会運営の中で多様性を活かした企画や制度を重視していることである。

II.　日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

本学会年次学術大会において毎年必ず他分科会と連携し、ジョイントプログラムの実施し双方の会員との交流、議論する場を設けている。また、他分科会と連携し各種会議、委員会への参画、共同研究を実施している。

2015 年に、「急性腹症診療ガイドライン」を日本腹部救急医学会、日本医学放射線学会、日本産科婦人科学会とともに共同編集した。

2018 年に、「新アルコール・薬物使用障害の診断治療ガイドラインに基づいたアルコール依存症の診断治療の手引き【第 1 版】」を、2019 年に、「飲酒量低減治療マニュアル　ポケット版【第 1 版】」を、それぞれ、日本アルコール・アディクション医学会、日本アルコール関連問題学会日本肝臓学会、日本消化器病学会、日本精神科病院協会、日本精神神経科診療所協会とともに作成した。